
奇士団

蛛依

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奇士団

【Zコード】

N3470D

【作者名】

蛛依

【あらすじ】

同じ時に別の場所で亡くなつた12人の高校生が、人助けを条件に奇怪な力を持つ者へ奇士として生き返り、世の中のために頑張つて働くお話。

プロローグ

今日はついてない……いや、いつもか

不良A「あ！亨也君、見つけ

うわっ！」

「……つ……いつたあ……」

下校途中に突然腕を掴まれ壁に叩きつけられた。突然の事でなんの受け身もとれなかつた俺は、思いきり背中をぶつけ、痛さのあまりその場に座りこんでしまつた。

「ごめんね、痛かつたあ？」

声のする方へ顔を上げれば、目の前にニヤニヤと嫌な笑顔で俺を見てくる男が三人、いかにも不良ですといった格好だ。こいつらは学年で結構な問題児グループ。

そして俺はそいつ等に目を付けられた可哀相な男の子。事ある「」と絡まれてる。まあ自分が弱いのがいけないんだけど…。

A 「あのね～これから俺ら遊び行くんだけど～亨也君に頼みがある
だあ～」

B 「おこでくれるよね？」

そんな事言わなくたって俺が頷くのなんてわかつてん癖だ。

「な、なに？」

平和主義で喧嘩も強くなじ俺はこいつも言つてきこてしまつ。

「悪いんだナゾ、五万くらいこ貰してくれない？」

ほんとに悪いと想つてないよな口調で有り得ない額を言つてきた。
勿論俺は…

「ノ、五万…」めん…持つてないです」

ビクビクしながら悪くもないのに謝る。格好悪い。

A 「はあ？ 五万もねえのかよ」

まだ高校生なのに五万も持ち歩いてるわけねえだろ。

「うわあ財布出して～」

「え… も、財布ですか」

B 「あーだよ、早く出せよー」

ビーしょ。今日は欲しいじロがあつたから今田のじづかい全部入つ
てるんだよな。流石に渡したくなーし…。

A 「おーー早く出せよー」

B 「殴られてえのかあ」

「ないなんて言わねえよなあ」

「ない！ないです！！」

ドンニ

アーチー！ くそ！」

ふざけんじやねえぞ、待て！」

「ああ、逃げちゃった……」

俺は勇気をだして断つた。そしてAとBの間から上手く抜け出て靴も履き変えずに上履きのまま走つて学校を飛び出した。

「はあはあ：此処までくれば大丈夫かなあ」

「おい！ いたぞ！」 ちだ

「うわあ！まだ追いつくね

「いや等しきこといんだつた。」のまま逃げ切れるかなあ。

アーヴィ! あーい波叫す老だる」

「はあ…疲れた、めんどくせえから他の奴から金盗りうぜ」

B 「そーだな」

「あれ？ 追つてきてない？」

後ろを振り向くとやつをまで追つて来ていた三人がいなくなっていた。

「やつた。俺やるじやん」

自慢じゃないが俺は小さいときから逃げ足だけは速かつた。今度からは走つて逃げようかな。

「死守したお金でCD買つて帰ろーと」

このままで帰ればよかつたのだが、逃げ切れた喜びと欲しかったCDを買えることに浮かれて、俺は後々自分に大変な事がおこるとは思つてもみなかつた。

ウイーン

「あつがとうございましたー」

「えへへ やつと買えたあ、家帰つてゆつくり聞こつ

自分の欲しかつたCDを買い、店を出て隣のゲームセンターの前を

通りとしたとき

ウイーン…ガヤガヤ

A 「次カラオケいこーぜー！」

B 「その前に飯食おー腹減った」

C 「カラオケ屋じゃたけえしな

偶然にもさつき命懸けで逃げ切ったはずの三人と遭遇してしまった。
取り敢えず見つからないうちに逃げよつとしたが…

A 「あーおー、亨也がいたぞー！」

B 「あいっ…金ないとか言ひてCD買つてやがるーなめやがつてー！」

C 「ちよつとムカつべ。殴る？」

A 「ちよーじこーや。やうづばー！」

なにが調度いいのか…ほんとにひいてない…いつも以上に元気。

A 「亨也君…ちよつと俺達のサンデバックになつてよー！」

「え、遠慮しますうー」

B 「あーまた逃げやがつたー！」

逃げ切んなきやー今度こそ殴られる。

俺は後ろの二人に気を取られていて気付かなかつたんだ。

「ちよつと吾一まだ赤信号」きやあ……」

キキイ……

「え……」

バーン

A「おー……マジかよ

B「い、こむら

C「やべえ」

今日は人生で一番ついてない日だつたんだ。まさか自分が……。殴られてたまうがマシだつたなあ……

そんなことを考へてゐるあいだにも血は止まらず、制服のYシャツを赤く染めていく。身体が寒くなつてきた。

「おー、大丈夫か?!誰か救急車を……救急車を呼んでくれ!」

あーなんか頑張つてくれてる。

俺なんかの為に……

最期まで格好悪い……

見ず知らずのおじさんがなんか言つていたけど、俺はそこで意識を手放した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3470d/>

奇士団

2010年10月28日07時45分発行